

The Story of “Going 舞い Way” (Short Version)

現在の演舞が持つ、「感謝～笑顔～ありがとう」の物語

見出し	演舞の意味するイメージ (ストーリー)	上段：踊り名／下段：楽曲名
①序章 (感謝)	太鼓のパフォーマンス～豊作の喜び	(待機) (フリー)
②オープニング (感謝)	刈入れ後の大地に舞い降りる すずめたち～豊作の喜び	(未定) ゆっくり雀
③奉祝の曲 (感謝)	感謝の気持ちを神仏に捧げる踊り ～収穫の感謝	天神 天神
④奉納の踊り (感謝)	八乙女舞い(巫女舞い)～ 神仏への感謝・豊栄(とよさか)の舞	(未定) プロローグ
⑤自由踊り (笑顔)	高揚した気持ちが爆発する踊り～ 元気でダイナミックなはね踊り	はね踊り 出囃子
⑥自由踊り (笑顔)	宴もたけなわとなり酒を酌み交わす 男女の踊り～観客に笑いを与える	にわか踊り(扇子なし) ナイス囃子
⑦規定踊り (笑顔)	笑顔で気持ちを一つにした踊り～ 現代風な要素も感じる楽曲	古暦1 古暦
⑧規定踊り (笑顔)	笑顔がはじけ、掛け声も可愛い踊り～ 伝統的なすずめの楽曲	大小路流し すずめ2
⑨エンディング (笑顔)	影向(ようこう)の松～極めポーズ	松、または華 笛と大太鼓
⑩終章 (ありがとう)	整列・礼～ここからのありがとう	ありがとうございました 大太鼓

②から⑩が現状の“Going 舞い Way” Short version です。

豊栄(とよさか)の舞：乙女踊りとも言われ、舞人は榊または季節の花を右手に持って舞います。森羅万象の神々を崇め、その恩恵に感謝する心を表した舞いです。この舞いは、太陽の恵みや、生きていることへの感謝、自然への感謝の意味が込められています。

影向(ようこう)の松：影向とは神仏が姿を現すことで、影向の松は神仏が現れるときの依代(よりしろ)となるものです。

奈良の春日若宮神社のお祭りの初日、田楽や猿楽などの芸能者が鳥居の傍らにある一本の松の前で芸を披露したことが始まりとされています。この松こそが春日明神が影向すると言う「影向の松」です。能舞台では正面に影向の松があると想定して、鏡に映った松を舞台背景に描いています。(影を映すので、鏡板と呼ばれます)

依代(よりしろ)：依代とは神霊が寄り付くものを言います。神霊の憑依したもののことです。樹木・岩石・人形・人間などが依代として考えられています。